

夜間仮面高血圧の季節変動

Seasonal variation in the prevalence of masked nocturnal hypertension

成田 圭佑

唐津赤十字病院 循環器内科

【目的】 昼間（朝・就寝前）の家庭血圧が正常であるにも関わらず夜間家庭血圧が高値となる夜間仮面高血圧の季節差についての報告は未だ無い。本研究では夜間家庭血圧測定を用いた観察研究であるJ-HOP Nocturnal研究のデータを用い、検討を行った。

【方法】 一つ以上の心血管リスクを有する外来患者に対して朝夕の家庭血圧測定に加え、就寝中の午前2時、3時、4時の夜間家庭血圧測定を行った。2544名について、測定を行った季節毎に春629名、夏595名、秋719名、冬601名にそれぞれ分類し、夜間仮面高血圧の頻度について横断的解析を行った。

【成績】 夜間平均収縮期血圧は夏に最も高かった（夏, $123 \pm 15\text{mmHg}$, vs. 春, $121 \pm 15\text{mmHg}$; 秋, $121 \pm 15\text{mmHg}$; 冬, $119 \pm 14\text{mmHg}$; all $p < 0.05$ ）。昼間血圧正常（朝夕平均収縮期血圧 135mmHg 未満）の1565名のうち夜間仮面高血圧（夜間平均収縮期血圧 120mmHg 以上）の割合は夏に多かった（夏46% vs. 春27%; 秋29%; 冬25%; all $p < 0.05$ ）。さらに、早朝家庭血圧を厳格に管理した集団（ 125mmHg 未満）においても夜間仮面高血圧は有意に夏に多かった（夏27% vs. 春14%; 秋9%; 冬9%; all $p < 0.05$ ）。これらはロジスティック回帰分析で患者因子を補正しても有意であった。

【結論】 特に夏は、昼間家庭血圧の管理が良好な集団においても、夜間家庭血圧高値である夜間仮面高血圧の割合が多い。